足羽川復旧報告会　議事要旨

開催日時　：　平成２０年４月１５日（火）　１５：００～１７：００
開催場所　：　福井県庁　Ｂ１Ｆ　正庁
出席委員　：

＜足羽川洪水災害調査対策検討会＞

委員長　　中川　一　　（京都大学防災研究所　流域災害研究センター　教授）
副委員長　荒井　克彦　（福井大学工学部　建築建設工学科　教授）
　　福原　輝幸　（福井大学工学部　建築建設工学科　教授）
　　斎藤　優　　（気象庁　福井地方気象台長）
　　末次　忠司　（ダム水源地環境整備センター　研究第一部長）
　　谷本　光司　（国土交通省　近畿地方整備局　河川部長）
　　三輪　準二　（国土交通省　福井河川国道事務所長）

＜足羽川河川環境整備検討会＞

委員長　　進士 五十八　（東京農業大学　地域環境科学部　教授）
副委員長　荒井　克彦　（福井大学工学部　建築建設工学科　教授）
　　朝日　恵子　（福井文化服装学院　学校長）
　　堀田　達也　（福井商工会議所　青年部会長）
　　今井 三千穂　（福井県総合ｸﾞﾘｰﾝｾﾝﾀｰ　緑化・技術指導課　緑の相談員）
　　藤岡　眞一　（福井市商工労働部長）
　　八木　政啓　（福井市総務部長）

＜足羽川桜づつみ協議会＞

委員長　　薬袋 奈美子　（福井大学工学部　建築建設工学科　講師）

１．開会

２．委員紹介

（福井県　中安土木部長）

３．知事挨拶

西 川 知 事：今日は、足羽川復旧報告会を開催致しましたところ、皆さんお集まりを頂き、誠にありがとうございます。

さて、平成 16 年の夏の福井豪雨では、一万余の世帯が浸水し破堤するな等、大きな被害が起きました。その後、迅速なる災害復旧を行い、現在、ほぼ完成に近づいていますが、合わせて、河川の安全や環境問題等が重要な課題で、総合的に河川に関わる事業を、足羽川を中心に進めているところです。住民の方々にも、いかに、この点をご理解頂きながら、全国のモデル的な事業とするかが重要で、そういう意味で今日はご視察・ご検証頂くことかと思っています。

桜の季節もほぼ終わりかけて、さまざまな想いの中での、河川の安全と環境問題

ということです。特に、足羽川河川環境整備検討委員会では、新しい環境の創造として、足羽川の整備方針に関するすばらしい提言を受けました。
本県では、足羽川洪水災害調査対策検討会と足羽川河川環境整備検討会の提言を踏まえながら、整備を進めてきましたが、激特事業も、残すところ後 1 年となり、今回、この報告会を改めて開催いたしました。
今後の足羽川の整備における留意事項や、将来にわたる足羽川との係わり等について、忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。
最後になりましたが、委員の皆様のこれまでのご尽力に対し、改めて心から感謝を申し上げ、ご挨拶にかえさせて頂きます。

４．足羽川洪水災害調査対策検討会についての報告

（福井県河川課　北嶋課長）

５．意見交換

中川委員長：法線の是正した箇所等では、川床は綺麗に整正されたが、将来は、当然砂が溜まる所もあるれば、植生が生えてくる所もある。今後、どんどん溜まっていくようであれば、治水安全上好ましくない。完成後もしっかり管理して、治水安全度を確保してほしい。生態系にもやさしく、自然環境や河川環境を保全しつつ治水安全度を守ってほしい。

福 原 委 員：住民への携帯メール通信システムについては、仮想的な状況でも良いので、デモンストレーション的なサンプルを今後考えていくと、もっと有効的に利用できると思う。
越流した水がどのような形で、低水部分の地域を流れていくのかということも検討してほしい。また、これを有効的な避難の材料として使用することも、検討してほしい。

中安土木部長：常に住民の方々にリアルタイムで、一番早い形で情報が伝わればと思っており、指摘を踏まえて、これから普及に努めて行きたいと思う。
氾濫した後の洪水流の解析については、洪水ハザードマップをつくるという過程の中で、指摘を踏まえながら、水はどう流れていくのか、どこが危ないのか、どういうルートでどこへ避難すべきか、そういったものをつくって周知していきたいと思う。ハザードマップも今のところは静的な解析しか行ってないが、技術的な指導を仰ぎながら、動的な解析も今後考えて行きたいと思う。

中川委員長：ハザードマップだけが全てではないと思うので、ビデオのホームページ掲載等、工夫して、より避難に役立つようなものをつくってほしい。

荒井副委員長：福井豪雨の再現水位は、ちょうど破堤した所で、急に高くなっている特殊な形状をしている。今回の改修を行って、このような特性は変わったのか。この特性を残したままで大丈夫なのか、それとも特性が変わっているのか、その説明をお願いしたい。

中安土木部長：この特性については、改良されている。

朝 日 委 員：現場見学会はどれくらいの期間に行ったのか。また、防災意識と防災力を同時に、

平常時から高めていくことが必要があると思う。

小野田主任：現場見学会は平成 17 年の 10 月か 11 月くらいに 1 回開き、そのとき、あまり集まらなかったので、平成 18 年、19 年は夏休み期間中に開いた。17 年に 1 回、18 年 19 年に 2 回づつ開催し、小学校等から見学の申し込みがある場合は、随時対応している。

中安土木部長：ここでは、防災力と意識の啓発を別々に説明したが、決して別のものではなく、ひとつながりのものだと考えている。

末 次 委 員：復旧事業の方も近々一区切りつくと思うが、やはりその次は、維持管理とモニタリングが重要になってくると思う。特に、破堤地点付近は、河床勾配が緩く、かつ低水路幅が広くなるので、土砂が溜まる可能性があるため、浚渫を定期的に行う必要がある。また、法線是正により洪水の流れが以前と変わるため、当初想定したような流れ方になるのか、そういった流れが起きたときに、護岸が洪水に対してもつかどうか、このような観点からのモニタリング、維持管理を行っていくことが重要だと思う。

情報伝達については、色々なシステムができたと思うが、まだ少し工夫が足りない面も感じている。福岡市では、水害後、徹底した情報管理と情報提供を行っている。例えば、洪水時の動画、登録した人への水位・流量の情報提供等、色々な面での情報提供を徹底して行っているので、参考にしてほしい。

ハザードマップについては、静的な情報だけではなく、時間的にどのように浸水が広がっていくか等、時間的な情報を入れているところもある。それらを参考にして情報提供してもらえれば、住民の人に役立つと思う。

中安土木部長：福岡市の三笠川と足羽川は共通点があるので、よく参考にしながら、今後の情報提供の体制を考えていきたいと思う。動的なマップについても、今後取り組んで行きたいとは思うが、基礎データも多く必要となり、技術的な面で課題が多いため、色々な方々の指導を仰ぎながら前向きに取り組んでいきたいと思う。

モニタリングについては、非常に大事なことなので、土木部あげて重要なポイントとして、やっていきたいと思っている。

谷 本 委 員：今後とも上下流一緒になり、また県とも一緒に、きちんと河川管理、改修をやっていきたいと思う。災害の記憶というのは大変風化しやすいため、意識を持続的に維持していく取り組みは、その地域と一緒になって、やっていく部分だと思う。災害の記憶を語り継いでいく努力を皆さんと一緒に、さらに工夫してやらないばいけないと、最近思っている。

中安土木部長：全くその通りだと思うので、整備局と一緒にやって行きたいと思う。

三 輪 委 員：啓発ということで、福井豪雨以降、昨年度までの 4 年間フォーラムという形で、皆さんの意識が風化しないように、福井県と協力しながらやってきている。今後とも国、福井県と一緒になり、風化させないように努力していきたいと思う。

福 原 委 員：地域の方々に、こんなことをやりましたということの報告が必要になってくると思う。その報告を一般の方々に、分かりやすい形でやってほしい。

中安土木部長：色々な指摘の中で、足りない部分、もっと分かりやすくといったところもあるた

め、今日の資料等を改善しながら、先生方はもちろん、一般の方に対しても情報提供して行く機会を積極的に設けて行きたいと思う。

斎 藤 委 員：洪水予報を県の担当部局と協力して確実に行うことや、飛躍的には難しいが精度向上を目指して地道にやっていきたい。

中川委員長：委員長のまとめということであるが、知事の方には、もう少し時間かけてまとめてから報告する。

６．足羽川河川環境整備検討会についての報告

（福井県河川課　北嶋課長）

７．意見交換

荒井副委員長：水辺空間の利用にあたり 3 つのゾーンに分け、そのコンセプトが委員会で提言されているが、ゾーン分けの考え方というのは、今回の改修に活かされているのか。それとも、こういったことはあまり関係なしにやられているのか。

小野田主任：上流の水辺の体験ゾーンについては、なるべく水際に近づくことができるようにということで、緩勾配の護岸、覆土護岸にしている。中間の歴史文化を感じる憩いの水辺ゾーンでは、福井城の外堀であったということもあり、景観に配慮して、堤防の擁壁を自然石の石積にし、特殊堤のパラペットにも化粧を施している。下流については、四季を楽しむということで、菜の花ロード等で使い勝手が良いように、工事用道路をそのまま残して使うことで考えている。

荒井副委員長：委員会としての基本的な考え方は、あまり細部の細かい計画までは決めないで、今後の有効活用のために、その場を提供するという感じでまとまっていたと思う。現段階では、具体的な活用については決まっていないのか。

中安土木部長：これから福井市等と協議しながら、どういう形で活用していくのか、具体的な話を詰めていきたいと思っている。

薬袋委員長：洪水災害調査対策検討会の報告について、工事をすると市民の方がより安心感を持ってしまい、水に対する危機感が薄れるのではないかと思う。堤防強化をしたということは、ある意味危険度が増す面があるという言い方をしない限りは、安全対策がかえって被害を大きくすることもある。まちづくりの面からいえば、都市計画課との連携、いろんな教育部門との連携等、色々対応が考えられると思うが、何か庁内で対応がとられているのか。

河川環境整備検討会の報告について、多品種で長期間楽しめる桜をメインにしていこうということが、委員の皆様の意見だったかと思う。しかし、パンフレットの新しい堤防計画では、桜を一列に植えるようになっている。この点について確認したい。

破堤した部分以外で堤防強化をする所についても、伐採をするという認識が一般にあまり知られていない。もう少し説明を色々な機会にするとよい。

新しい堰については、レクリエーションのための堰というような認識をしたが、それは一般的によくあることなのか。水は怖いのものだ、流れている水は大変怖

いのだから避難しなさいということを望む市民の方々に、正しい川として理解する場になりうるのだろうか。また、自然環境への影響は、小さな堰でも非常に大きいと聞いている。自然環境を大切にしながら工事をしますと言っている脇で、やって良いことなのか。

中安土木部長：堤防が出来たからといっても必ずしも安全ではないことを、常に認識してもらいたいと思う。これが、まさに防災意識の啓発というものであって、情報提供とともに、住民の皆様方には、自助・共助する体制を整えていってもらいたいと考える。

薬袋委員長：例えば、ハザードマップをつくって、ここは浸水し危険なのだから、現行の都市計画上は、宅地をつくって良いことになっていても、本当に良いのかという都市計画系のことを、県や市、自治体との連携、専門家同士での話し合いということにつなげていって、被害に遭う機会を減らす努力が必要だと思う。また、教育してもらうための教育関係との連携等を、行政内で実行していかないと変わらないと思うので、何らかの取り組みを考えてもらえないか。

中安土木部長：今日、ご意見頂きましたので、早速、そういうことについても教育関係と話をしてみたいと思う。

水のつくような危険な所は、市街化調整区域の中で、家を建ててはいけない区域として、都市計画されているのが本来のあるべき姿だが、必ずしもそうではないというのが現状である。今後、災害に対する安全性にも十分配慮して、都市計画をつくっていくべきだと思っているし、都市計画の方とは、ハザードマップの情報等についても、十分共有していきたいと思っている。

パンフレットの絵は、よく見て頂くと千鳥になっているが、描き方を工夫して、もっと千鳥に見えるようにすべきであったと反省している。次に、新しく情報を提供する時には、もっと分かりやすい形に直していきたいと思う。

桜のある区間については、土質調査を行い危険な所については、桜を伐採して、堤防を強化するということで決めた。周知が不十分だったということであるならば、指摘として受け止めて、これから更に周知を図っていきたいと思う。

堰については、景観あるいはレクリエーションのための堰を考えている。このような堰は、非常に事例は少ないが、例えば千葉県の養老川に、同じ目的の堰がある。堰については、まだ検討段階であるが、一時的に立て込んで水面をつくり、それ以外の時は寝かして、普通に水を流すことで考えている。だから、自然環境の中で、例えば、魚の生態系等に対する影響を、最小限に止められるのではないかと思っている。常に水を溜めて、ダムのようになってしまうということではなく、一年のうち大部分は、水が流れている状態である。ごく一部の時にだけ水を溜めて、レガッタやカヌー等、色々な形で舟遊びができるような空間づくりを考えている。

今 井 委 員：来年の 3 月頃に桜を植栽するようであるが、この最終案の桜は、ある程度のサイズの苗木を植えるように聞いているので、その手はずが大丈夫かどうか、個人として心配をしている。

管理については、技術的な面で、一般市民の教育を高めていく必要があるのではないかと思う。桜守の会としても、協力していきたいと考えているが、今後、行政の方の協力もお願いしたい。

小野田主任：苗木はなるべく大きいものを来年３月に植える予定で、ソメイヨシノ系列のジンダイアケボノ、ヨウシュンを日本花の会の農場で仮押さえをしてある。
それから、管理についても、検討していきたいと思う。

朝 日 委 員：この委員会のことが、これで良かったかどうかというのは、10 年 20 年 30 年と経たないと評価されてこないものなので、その間の管理についても、皆が意識してみてほしい。是非いい評価になるように、これからも、桜について皆が、関心を持ち続けてほしいと思っている。

堀 田 委 員：足羽川を都市景観の観点から、中心市街地と一体感が持てるようにできないかと思う。個人的な提案だが、幸橋から木田橋あたりの広い右岸の工事用道路から、中心市街地が見えるようにして、何か賑わいのようなものができたら良いのではないかと思う。
みお筋を修正をしたので、堰をつくらなくても、舟が乗り入れできるのではないかと思う。そのような検証も是非してほしい。
私も福井豪雨の被災者で、災害時に、避難をして下さいと言われても避難はできなかった。一番いい避難場所は、自宅の二階やビルの屋上等、高いところであった。この辺を是非、対策委員会の方でも考えてもらいたい。

中安土木部長：景観面で、桜堤や足羽川だけではなく、もっとエリア全体としてつながりのあるものにしたらどうかという話だったと思うが、県全体では、ランドスケープとして、福井の景観をどのようにしていったら良いだろうかということに、力を入れてやっているところである。福井市でも、景観形成計画をつくっており、それらと一緒になって、色々な取り組みをやっている。是非、皆様と一緒になって、良い景観をつくっていきたいと思っているので、提案等があれば、聞かせて頂きたい。

堀 田 委 員：中心市街地がここにあるというのが、堤防で隠れてしまって見えない。こちらの方が中心市街地、こちらの方が足羽山だと分かるような、何か仕掛けができないか。このようなことについて何か考えがあれば、教えてもらいたい。

中安土木部長：そのことについては、今のところ考えていなかったので、今後、検討してみたい。

朝 日 委 員：堀田委員さんの意見とは、少し違う意見を持っているが、福井市の中心も動き出して、もっと広がりということが大事になってくると思う。長い時間をかけて、足羽川を育てるという気持ちも必要かと思う。中心市街地はここですと、声高に目立たせなくてもよいと思う。

藤 岡 委 員：利活用についての要望であるが、市として企画に関する情報を全庁的に共有させて頂き、市民の声も聞き、協議をしながら、このような利活用についての計画を進めてもらいたいと思う。

八 木 委 員：県と市で色々なことを進める必要があることを、市の関係部長・部署に報告をしたいと思う。それから、これだけ大きい川で親水というのは、どのようなことを

イメージされているのかお聞きしたい。

中安土木部長：今、堰でつくろうとしている親水空間は、舟を浮かべて楽しんだり、あるいは水面が満々と水を湛えている本当に川らしい空間である。水が干上がって、川底が見えるような川よりも、水がある方が良いのではないかと思う。

進士委員長：普通、委員会が終わったら終わりっぱなしで、報告されることはほとんどない。それをこういう機会をつくっただけでもまず評価される。ただ、後半の環境整備検討委員会というのは、もう少しまちづくり全体を考えていこうということであった。河川工事としては、十分やってこられたと思う。ただ、我々が目指したのはそれだけではなく、それを超えよう。河川空間そのものは激特事業でやるけれども、足羽山と福井城の軸と川がクロスする大きい都市構造として考えなければいけない。そしてそれは、ほとんどが市の仕事です。それから薬袋さんが取り組んでいるような、市民活動も必要。それも基本的には、市が応援してくれないと出来ない。そこのところを当初、相当言ったけれども、どうもそうなっていないように私は思う。都市河川、県庁所在地の中心市街地を流れているような川というのは、対外的な観光の目玉で、シンボリックな空間なのに、県と市が分かれ、ハードとソフトも分かれていている。多摩川では、自治体もいろいろ関わり、住民や何十ものＮＰＯグループも関わって、ある種の流域コミュニティができている。多摩川エコミュージアムという事業です。このような例は、全国にたくさんある。福井市役所の方々はそういう事例を視察し、現地のいろんなグループと意見交換して、しっかり学習してもらいたい。桜のことで、それだけ盛り上がった素地があるわけですから、可能性は大きい。

多様性と多層性について述べたい。これは２１世紀型の新しい花の名所をつくろうとして考えたコンセプトである。ソメイヨシノ一色でなくても、新宿御苑等は、５，６０種類の多層な桜の立派な桜の名所ですし、私は十分やれると思う。ただ、このコンセプトの名所を成功させるには、堤上の桜の植栽について、肌目細かな配慮とデザインが必要なのである。それぞれの場所ごとの植栽デザイン、園路デザイン。分かりやすくいうと庭園のように、何十年経ってもいい、春夏秋冬もいいという緻密な空間デザインが必要である。

今回インフラは、ほぼ整備され、ベースができた。この上に、市と県が、もう少し積極的にまちづくりとしてサポートしながら、むしろこれからは市が中心になって、そこに魂を入れていくという段階に入ったのではないでしょうか。そこに、桜守の会であれ、専門家の集団であれ、様々なグループが参加して、世界に誇る新しい 21 世紀型の桜の名所をつくってもらいたい。そのソフトウェアが十分でないということが、明確に分かった。治水といった経験のある業務では、十分頑張った。ただこれから最も重要なのは、これからのことで、その上をやらないといけない。

中安土木部長：皆様方からの意見を踏まえ、引き続きソフトの面についても取り組んでいきたいと思う。

８．閉会

以上